

8 令和7年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 名 称： 東京都立青山高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局構成： 副校長、経営企画室長
- (3) 内部委員構成： 校長、副校長、教務部主任、生徒保健部主任、進路部主任、
DX 探究部主任 広報部主任 3 学年主任 計 8 名
- (4) 協議委員構成： 外部有識者 1 名、教育関係者 2 名、地域団体代表 2 名、同窓会代表 2 名、保護者代表 1 名、校長が指名する者 1 名 計 9 名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）

第1回 令和7年6月28日（土） 内部委員8名、協議委員8名	・令和6年度学校経営報告・令和7年度学校経営計画 ・学校運営連絡協議会実施報告及び学校運営連絡協議会の趣旨説明 ・各分掌主任から年間計画
第2回 令和7年11月29日（土） 内部委員8名、協議委員7名	・4月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・外苑祭、夏季部活動合宿報告 ・学校評価アンケートについて
第3回 令和8年2月14日（土） 内部委員8名、協議委員8名	・学校評価、授業評価、生徒実態調査等の結果報告 ・12月からの学校運営、各分掌主任からの経過報告 ・年間報告

(2) 評価委員会

第1回 令和7年11月29日（土） 内部委員2名、協議委員1名	・学校評価の基本方針の確認、学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和8年2月14日（土） 内部委員8名、協議委員8名	・学校評価及び授業評価アンケート集計結果の分析・考察、意見交換

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の項目

- ア 生徒： 本人の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- イ 保護者： 子供の学校生活と家庭生活、学校の教育活動
- ウ 地域： 学校と地域の活動、関わりについて
- エ 教職員： 生徒の学校生活と家庭生活、学校の教育活動

(2) アンケート調査の実施時期、対象、規模

実施時期：令和7年12月上旬から令和8年2月上旬まで

対象・規模：生徒・保護者 各 830 人、教職員 50 人、地域住民、外部委員 10 名

回答率：生徒 78%（650 名）、保護者 64%（535 名）、教職員 96%（48 名）、地域住民（25 名）

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
ライフ・ワーク・バランス

(4) 評価結果の概要

【全体】

生徒・保護者・地域・教職員対象のいずれも、多くの設問において肯定的回答が 80%を超えた。(生徒 10 問/12 問、保護者 6 問/11 問、教員 14 問/17 問、地域 8 問/8 問)。自由記述についても、肯定的な意見が多く、学校の満足度をより高次にするための具体的な提案も見られた。一方で、美化については、生徒、保護者、教職員ともに肯定的な回答が低く(生徒 42.8%、保護者 29.3%、教職員 77.1%)、施設面(トイレ、グラウンド、水道など)を中心に多数の意見があった。

【生徒】

生徒からの意見では、素晴らしい仲間とともに学習・部活動・行事の三兎を追い、充実した学校生活を送れていることが多く寄せられる一方で、三兎を追うことの難しさやプレッシャー、よりよく過ごすために設備面の環境整備、授業や行事についての細かい改善要望などもみられた。

【保護者】

保護者意見については、生徒が充実した高校生活を送れていることへの満足、学校への感謝を示す内容が多かった。一方、空調・トイレ・グラウンド・水道の水質に関することは、今年も相変わらず改善要望として多数挙げられており、恒常化しつつある。空調に関しては、個別空調への切替工事が今年度着工、令和 9 年度工事完了予定であったが、契約不調のため先送りとなり不透明である。トイレについても全面改修などの抜本的な解決には至っていない。

また、今年度も外苑祭でのチケット配布方法がわかりにくいという意見が多く見受けられた。Classi 等で早い段階から保護者へアナウンスすることで改善できるのではないかとと思われる。また少数ではあるが、進路指導の在り方や保護者面談の実施に対する要望、授業内容や教員の指導力について指摘する意見があった。

【地域】

地域の意見からは、おおむね高評価をいただいた。コロナ後に再開した地域との連携事業が継続できていることや、生徒達が間近で活躍する姿を肯定的にとらえていただいている。今後港区役所との連携を希望する意見があった。

【教員】

教員からは、指導方針、生徒との関わり、カリキュラム、設備、働き方等について、課題が示された。教員による組織的な指導体制の強化に努める必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察(教員や学校全般への意見・提言)

- ・自由記述について、在校生から教職員による詳細な意見がある。自由意見を回答できるということ自体は学校評価アンケートとして機能している証であり、開かれた評価であるという証明。今後も様々な評価が見られるアンケートであってほしい。
- ・色々な意見があるが、実現可能か不可能かということを見極め、来年度の学校経営に反映できるのか、するのかということに注目している。特に施設面について、都立という条件でできること/できないことがある。
- ・SNS については、主なターゲットは在校生というよりも、在校生の保護者や中学生・保護者であろうと思う。
- ・大学ではデジタル化が進みすぎていて、学生は字が書けない。デジタル化も大切だが、字を書く練習は授業の中で取り組んで欲しい。
- ・学校での生徒の様子をもっと知りたいという保護者には、PTA 活動への勧誘を行っている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）成果

様々な立場から評価や意見をいただくことで、新たな視点や気付かなかった問題点、改善点に気づくことができた。学習指導については、満足の回答が多くまた進学実績も進学指導重点校としての責務を果たしていることから、本校の取組が評価されている。自由記述アンケートに見られる意見要望、提案についても、優先順位を付けつつ、対応策を令和8年度の学校経営計画に明記し、真摯に取り組んでいく。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかになった課題

- ア. 生徒の実態に応じた教育活動の展開
- イ. 施設の改修と美化
- ウ. 授業力の更なる改善
- エ. 広報活動の充実

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- （1）トイレの悪臭対策、水質改善、個別空調の設置拡大、グラウンドの整備、廃棄物の処理など教育環境の整備を一層推進する。
- （2）大学入試改革を見据えた自校作成問題の継続、校内学力テスト、定期考査の改善及び目標値を設定し、進学実績の一層の向上を目指す。若手・中堅の人材育成など計画的に実施していく。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合 9名回答

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	分からな い	無回答
9	0	0	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回